

書評

[評者]

大友 邦

東京大学大学院医学系研究科
放射線医学講座



画像診断ヒヤリ・ハット 記憶に残る画像たち 放射線診療安全向上研究会 編

B5判 頁290 2010年
定価 5,250 円(本体 5,000 円+税 5%)
[ISBN978-4-524-25325-8] 南江堂刊

Wikipediaによると、「失敗」は、ある程度の損害やデメリットを承知したうえでの織り込み済みの失敗、果敢なトライアルの結果としての失敗、そしてヒューマンエラーによる失敗の3種類に大別できるそうです。救命を最優先して行われるIVRは、常に前2者との遭遇を覚悟しながら行われる医療行為ということができます。一方、ヒューマンエラーに起因する第3の失敗は、回避可能であるにもかかわらず発生し、失敗が次の失敗を生む悪循環に陥る危険性もあるものです。我々放射線診断医の日々の読影業務は、ある意味で見落とし、誤診という第3の失敗との戦いであるということができます。そして瞬時に膨大な画像データを生み出すMDCTと高速MR撮像法の進歩と普及は、医療に向けられる社会の視線の厳格化と相まって、この戦局を一層深刻なものにしています。

本書は、画像診断において第3の失敗を未然に防ぐことができた、あるいは悪循環に陥ることを防ぐことができた113症例(頭部9、頭頸部8、肺9、乳腺5、心大血管4、肝胆膵11、消化管21、婦人科9、小児5、造影剤・検査10、PET5、腎8、骨軟部9)から構成されています。各症例は見開き2頁に簡潔にまとめられ

ているだけではなく、読者が実際の経過を追体験できるように、小項目(スタッフの会話形式の初期診断、択一問題形式の「あなたならどうする?」、その後の経過、ヒヤリ・ハットのポイント)の並びと内容に細かい工夫がなされています。いわゆる「後知恵」では何とでもいえるのですが、顛末を知らずに、「どこに本書に掲載される由縁となった所見が隠されているのか」と考えながら画像を見てみると、いつのまにか緊張している自分に気づかされました。

本書の由来は序文(放射線診療安全向上研究会 代表世話人藤田正人先生)に詳しく書かれています。研究会の母体となった勉強会を立ち上げられた坂本力先生と早川克己先生を中心とする多くの方々の先進性と継続的なご努力に、満腔の敬意を表します。人間は失敗するもの、失敗するから人間なのだと思います。したがって失敗をなくすことはできません。我々にできるのは少しでも失敗を少なく軽微なものにするために努力し続けることだと思います。そのためには失敗にかかわる情報を共有することが必要不可欠です。1人でも多くの方が本書を通じて、第3の失敗を未然に防ぐ共同戦線に参加されることを切望しております。